

# LETTER

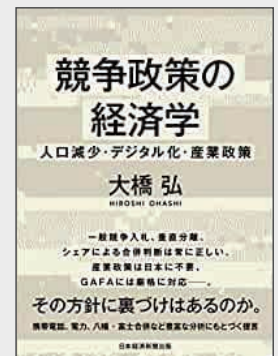
**GraSPP**  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

Contents

- 1ページ 受賞報告(大橋弘公共政策大学院院長、仲田泰祐准教授)
- 2ページ GraSPP Day 2021開催報告
- 3ページ 学生インタビュー
- 4ページ 社会人講座「イノベーションガバナンス エキスパート養成プログラム」の紹介 / TOPICS

## 受賞報告

公共政策大学院院長 大橋弘教授の著書『競争政策の経済学』(日本経済新聞出版)が第64回 日経・経済図書文化賞を受賞しました。本賞は、経済および経営・会計分野の学問、知識の向上に貢献すると共に、その一般普及・応用に寄与することを目的としており、本著が、携帯電話市場、電力産業の発送電分離、再生エネルギー買い取り制度など喫緊の課題に指針を与えると評価されました。



### 大橋弘院長のコメント

競争政策は、今やイノベーションの原動力として、その必要性を疑う人はいません。人口減少とデジタル化という2つの社会変動に直面するわが国において、競争施策に求められる視点があるとすれば、それは何か。新型コロナウイルスと共存するウィズ・コロナの時代を迎えるなか、競争政策の新しい形を考えるための一助となれば、大変うれしく思います。

仲田泰祐准教授が第6回円城寺次郎記念賞を受賞しました。本賞は、気鋭の若手・中堅エコノミストの活動を顕彰することを目的としており、仲田泰祐准教授による経済と感染症の両分野を融合した数理モデルによる分析結果の定期的な公表および政策立案への貢献について評価されました。



### 仲田泰祐准教授コメント

この度は、栄誉ある賞を頂き大変光栄です。選出して下さった審査員の皆様、どうもありがとうございました。

今後も、研究活動の現場だけでなく、一般の人々・政策現場の方々にも価値を感じて頂くことを目指して研究に励みたいと考えております。皆様のご理解、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

# GraSPP Day 2021開催報告

2021年10月16日に、2021年度の公共政策大学院ホームカミングイベント“GraSPP Alumni & Student Day 2021”をオンライン開催し、約90名の同窓生・在校生・教職員が参加しました。

第一部パネルセッションでは、ポストコロナの国際秩序を共通テーマとして、Heng Yee Kuang教授から「英国のインド太平洋への関与」、鈴木一人教授から「経済安全保障」について、それぞれご講演いただきました。講演後には有馬純特任教授のモデレートのもと参加者から多くの質疑があり、活発な意見交換が行われました。

また、第二部の修了生によるパネルディスカッションでは、初めての試みとして、日本語・英語の二つのセッションを同時開催し、各セッションに3名の同窓生をパネリストとして招き、それぞれCOVID-19下における職場環境についての経験を共有し、どのように対処しているか、また今後の展望について提案し合いました。

コロナ禍により昨年同様、実地開催はできませんでしたが、国内外からの参加者も多く、オンライン開催ならではの利点もあったイベントとなりました。

公共政策大学院同窓会担当 木村恵美

The GraSPP Alumni & Student Day 2021 connected professors, alumni and current students from all over the world through the virtual format. This day was focused on how the COVID-19 pandemic impacted different parts of the world and explored what the post-COVID world would look like. GraSPP professors kicked off the day by providing an in-depth analysis on the international order and key policy issues, including economic security, AUKUS agreement, and relationship with China.

In the following the session, the English version of the alumni panel had a discussion on “Workplaces in a Post-COVID World”. The panel was moderated by Sandeep Rajgopal, President of the Alumni Association (MPP/IP 2015) and included alumni from across the world in different industries, including Sylvia Shuwen Zhou, Oxford University (MPP/IP 2015), Isamu Itosu-Romero, Robert Walters (MPP/IP 2018) and Kat Eunmin Kang, Asialink Business, University of Melbourne (CAMPUS Asia 2018).

The alumni panel shared their thoughts on how COVID has affected their sectors (academia, recruitment, and business), what changes they see coming in future workplaces, what changes they would like to see in the future, and what the job market looks like. Participants had a chance to ask questions to the panellists, with topics such as job prospects in Japan, female participation in the workforce, and flexible working hours.

The GraSPP community also had a chance to connect with other participants in small breakout rooms. This allowed professors, alumni, current students to meet new people and reconnect with familiar faces. I hope opportunities like this continue so that we can continue supporting each other in the GraSPP family.

Kat Eunmin Kang (CAMPUS Asia, Class of 2018)



↑ 全体集合写真

↓ 第一部パネルセッションの様子



↑ 第二部英語ルームの様子  
(右上がKat Eunmin Kang)

↓ 第二部の日本語ルームでのセッションの様子





# 学生 インタビュー

第37回

## 井形 仁 さん

国際公共政策コース 1年



### —GraSPPに入学された動機は？

より実務的な側面から国際政治について学習したかったのに加え、留学も考えていたためです。学部時代から国際政治を勉強する中で、アカデミックな視点だけでなく、実際に日本外交を担っている方の考え方を知ってみたい気持ちが強くなったため、進学することにしました。また留学は、東アジア三カ国の国際政治に対する見方の違いをより深く知りたいと考え、Campus Asiaプログラムに参加したいと思いました。

### —コロナ禍の入学となりましたが、学校生活はいかがですか？

学部のとくと全く状況が違うことから、確かに入学時は不安でした。何より、同期や先輩と仲良くなれるか不安でした。ですが、実際に入ってみると、授業やラウンジで頻繁に顔を合わせることから、比較的苦勞せずに仲良くなることができました。例えば、ラウンジにあるホワイトボードを使いながらお互いの言語を教え合ったり、あと夏の暑い時期には冷房の温度設定で揉めたりしながら(笑)、今ではすっかり仲良くなりました。

### —学生自治会のメンバーをされていますね？

そうなんです。元々会長のBagasと仲が良かったので、彼に誘われて参加しました。私は今、Community Life Directorという役職についており、学生生活に関するサポートを行ったり、他の自治会メンバーと一緒にイベント(現在はオンライン)を企画したりしています。コロナ禍の中でも、学生の皆さんがそれぞれ自分なりにメリハリの効いた毎日を送っていることに脱帽しています。

### —GraSPP在学中にチャレンジしたいことはありますか？

学生生活も残り1年と少しなので、必ずしも多くの時間があるわけではないですが、できれば政府機関や国際機

関などで少しでも多くのインターンシップに参加したいなと思います。私はこの1年、民間での就職活動をしていましたが、やはりGraSPPの魅力はパブリックセクターとの距離の近さだと思うので、それをフルに活用したいですね。また、余裕があれば、そこで得た経験をリサーチペーパーなどの形でアカデミアに還元できればと考えています。

### —GraSPPでの学びを今後どのように生かしていきたいですか？

入学して1年未満の身で言うのは恐縮ですが…。GraSPPではパブリックセクターの第一線でさまざまな経験を積まれてこられた先生方から、貴重なお話をお伺いする機会が本当にたくさんありました。もちろん講義としても非常に勉強になる内容でしたが、何より私が感銘を受けたのは、日常の業務の先にある、「誰かを幸せにしたい」という情熱に触れることができたことです。将来、現場で働く際には、私自身もこうした考え方を大事にしていきたいと考えています。



クラスメイトと共に

# 社会人講座「イノベーションガバナンス エキスパート養成プログラム」の紹介

## 宗像直子 教授

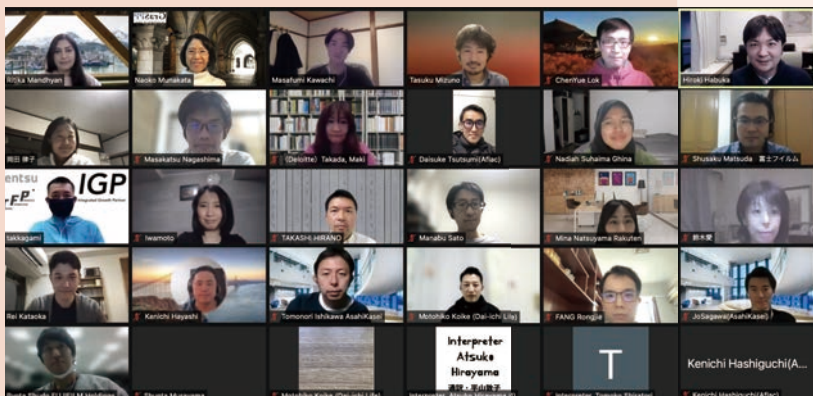
今年度秋学期に、社会人を対象とする「イノベーションガバナンス」に関する講座を開講しました。

日本経済は、バブル崩壊以来、成長が停滞し、世界における位置づけが低下しています。広く指摘されている課題は、イノベーションと新陳代謝の促進です。これを妨げている重要な要因の一つは、企業活動に影響を与える様々なルールが、技術や市場の変化に合わなくなっていることです。この問題の難しさは、時代遅れになった法令を改正すれば済むわけではないことです。社会の変化はデジタル化によって加速し、これまでの垣根を超えて利害関係者が増え、影響が複雑化しています。政策やルールを多様な利害関係者の立場を踏まえて持続可能性のある形で設計しなければなりませんし、それを機動的に見直し続ける必要があります。政策形成の仕組み自体を作り直す必要が生じているのです。新たな仕組みにおいては、公共政策を政府が担うだけでなく、様々な問題に直面しそれらを高い解像度で捉えている企業や地域社会や個人が、公共政策の課題設定や解決策の設計に主体的に関わる能力を持つこ

とが求められます。このプログラムは、企業、官公庁といった所属や立場を超えて、このような能力を養うことを目的とするものです。

授業は、経済産業省に出向しガバナンス・イノベーションのプロジェクトを取りまとめた弁護士の羽深宏樹氏と共に運営しています。ガバナンスの様々な要素について、法律・経営・哲学・システム工学・リスクマネジメントなど関連分野における世界の第一線の専門家から、最新動向を踏まえた講義を受けるとともに、現実の事例を取り上げ、受講生自身がガバナンスの設計に取り組み形で進められます。2月には、台湾のオードリー・タン デジタル担当大臣から、デジタル技術を活用して国民にニーズの発信を促し、これに合致した公共サービスを提供する仕組みを整えてきた中で得られた様々な知見を伺います。

今年度は、旭化成、Aflac、Amazon Japan、Salesforce.com、第一生命、DeNA、TMI総合法律事務所、デロイトトーマツ、電通、PwC、富士フィルム、森・濱田松本法律事務所、楽天から、合計24名が受講し、忙しい仕事の合間を縫って準備し、土曜午後の授業に臨んでいます。



オンライン授業の様子



宗像直子教授

大学院生向けの講義と相互に聴講可能としており、留学生、工学系大学院生を含め多様なバックグラウンドを持つ受講生が討論や授業外の活動を通じて交流を深めています。

来年度秋学期も開講する予定です。

## TOPICS

北京大学国際関係学院、ソウル大学校国際大学院、東京大学公共政策大学院の3校で2011年に始まったBESETO「キャンパスアジア」が、新たにシンガポール国立大学リー・クアンユー公共政策大学院を迎え、BESETO+NUSによる「キャンパスアジア・プラス」として再スタートしました。4校でのダブル・ディグリーと交換留学、オンライン教育を取り入れ4校の教員が共同で授業を担当するジョイントコース等を通じて学生・教職員の交流を行い、コロナ禍が落ち着き次第フィールドトリップも再開します。

**[CAMPUS Asia Plus説明会]**

<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/events/2022-01-12-33326/>

## 編集後記

今、注目を集めている技術の一つにメタバースがあります。メタバースとは、インターネット上の仮想空間で自分のアバターを作成し、他ユーザーとの交流などの体験ができる技術です。近年ではIT技術の進歩によりメタバースの自由度が向上し、メタバース上でのイベントの開催も増えています。GraSPP Dayをメタバース上で開催する日も遠くないのでは…と想像を膨らませてみました。(編集担当)

vol.

65

NEWS  
LETTER

【編集・発行】東京大学公共政策大学院 【発行日】2022年2月4日

113-0033 東京都文京区本郷7-3-1  
E-mail grasppnl@pp.u-tokyo.ac.jp  
<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/>